

調査研究報告書 No.103  
2001



# IT・KMの能力開発への導入内容の調査 および訓練カリキュラムの開発の報告 I

雇用・能力開発機構

職業能力開発総合大学校能力開発研究センター

ISSN 1340-2412

調査研究報告書 No.103  
2001

# IT・KMの能力開発への導入内容の調査 および訓練カリキュラムの開発の報告 I

雇用・能力開発機構

職業能力開発総合大学校能力開発研究センター



## はじめに

産業構造は、重厚長大から軽薄短小へ、さらに、物から情報へと変化しつつある。近年における経済のソフト化、サービス化はこれを反映したものと見える。

かかる中、経営資源として知的財産の役割がより注目されるに至っている。ビジネス社会での競争に勝ち抜き企業をさらに発展させるためには知的財産の活用が企業にとって最重要課題の一つになった。

世界経済の流れは、グローバル化・ボーダーレス化へと向かい、企業は技術開発における過酷な競争を強いられており、この中での生き残りが知的創造の成果にかかっている。

それゆえ、知的創造の成果の保護と活用は、産業界の重要課題であることはいうまでもない。これは、同時に、人的資源の能力開発の課題でもある。

これまでの典型的な能力開発においては、技術・技能的内容が主たる対象とされ、知識的内容は副次的なものとして扱われていた。

しかし、上記に述べたように、企業の経営環境は大きな変換期にある。そして、能力開発は、人的資源の高付加価値化なのであり、企業環境の変化への対応は必須である。

かかる認識に立ち、「IT・KMの能力開発への導入内容の調査および訓練カリキュラムの開発」に関する研究では、経営資源としての情報の重要性に着眼し、財産的情報の保護法である知的財産（権）法を能力開発において取り上げるための条件整備を研究課題とし、平成12度は、とりわけその重要性についての調査研究をおこなった。

小人数の編成ながら、委員各位の精力的な尽力により初年度の予定した内容は概ね終わることができた。委員各位の労およびアンケート調査の御協力に感謝申し上げますと共に、新たな試みへの叱咤・激励を請うものである。

最初に述べた「物から情報」への変化は、物の重要性はなくなるということではなく、情報の重要性が相対的に高まるということである。必然的に侵害等の問題を引き起こす可能性も高くなり、知的財産権法の役割が質、量ともに強化されるプロパテント、が世界的潮流となっている。

能力開発研究センターでの知的財産法研究は始まったばかりであるが、今日情勢を考えるとより早急な対応が望まれる課題であると思料される。関係者の協力の下、早急かつ着実な成果を目指し取り組む所存である。

平成13年3月

職業能力開発総合大学校  
能力開発研究センター

所長 高橋 則雄



「IT・KMの能力開発への導入内容の調査および訓練カリキュラムの開発」委員会委員

木村 友久	都城工業高等専門学校
田邊 良男	東海職業能力開発大学校附属浜松職業能力開発短期大学校
三浦 重光	東北職業能力開発大学校附属秋田職業能力開発短期大学校
若松 邦幸	愛媛職業能力開発促進センター
桜井 博行	職業能力開発総合大学校能力開発研究センター
事務局	職業能力開発総合大学校能力開発研究センター 調査研究室



# 目 次

第1章 研究概要

第2章 知的財産法の重要性

第3章 知的財産法研修簡易教材事例

第4章 ITを利用した知的財産対応能力開発の学習認知構造

第5章 特許侵害訴訟におけるアメリカ法と日本法との比較

資 料 (アンケート内容と結果)



